

## 米の消費動向について

みなさんは、毎日おこめを食べていますか。

2024 年の「令和の米騒動」では、猛暑による米の収穫量の減少や流通の混乱などが重なり、米価が急騰し、小売店などにおいて、米の品薄状況が発生しました。

一方で、食の多様化、人口減少、少子高齢化及び健康志向の高まりを背景に、米の消費量は減少傾向にあり、かつて日本人の食卓の中心にあった米の主食としての位置付けは、大きく変化しているようです。

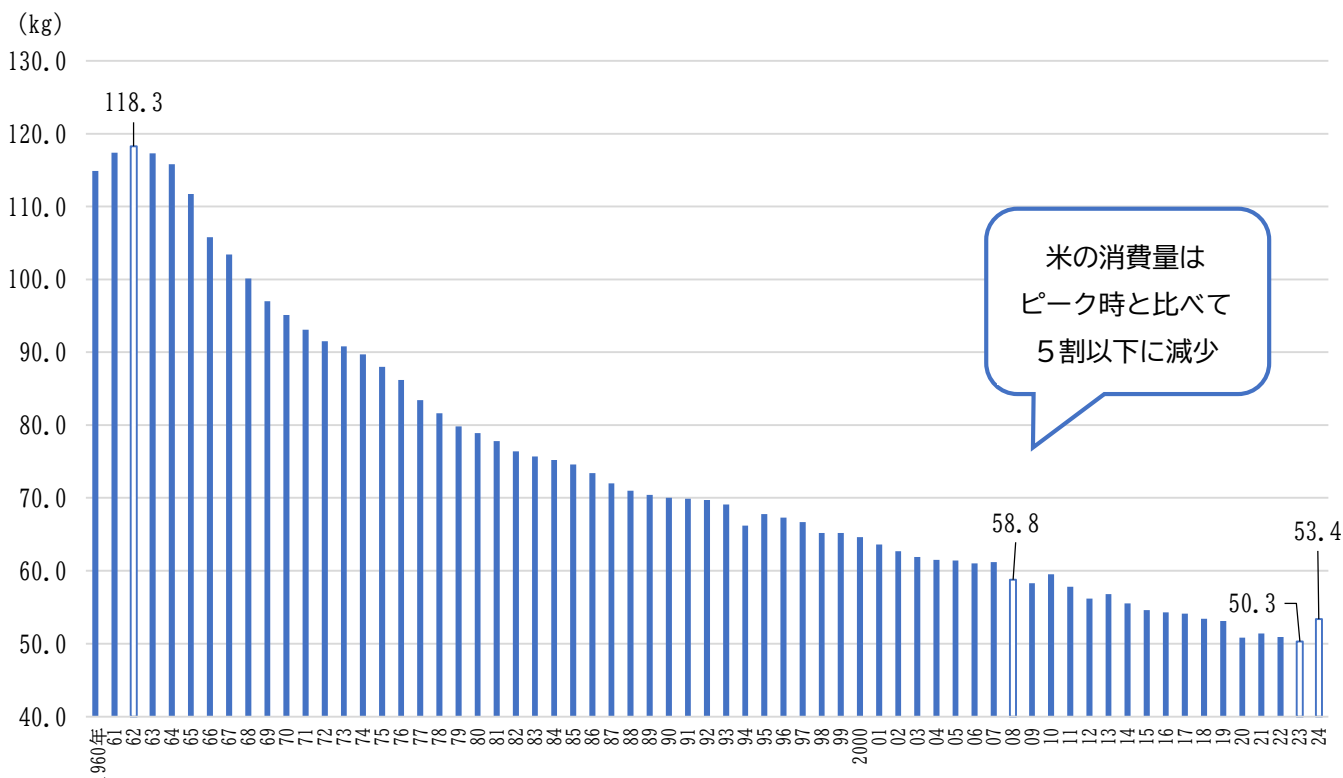
ここでは、米の消費動向について、「食料需給表」（農林水産省）、「国民健康・栄養調査」（厚生労働省）、「家計調査」（総務省統計局）などからみていきましょう。

### 1 米の消費量の推移について

日本人 1 人の 1 年当たりの米の消費量の推移について、「食料需給表」（農林水産省）からみると、米の消費量は 1962 年の 118.3kg をピークに、減少傾向が続いています。

2008 年には 58.8kg まで減少し、ピーク時の 5 割を下回り、2023 年には 50.3kg となり、約 4 割となりました。2024 年は概算値で 53.4kg となり、前年を 3.1kg 上回りました。（図表 1）

図表 1 1 人・1 年当たりの米の消費量の推移（全国）

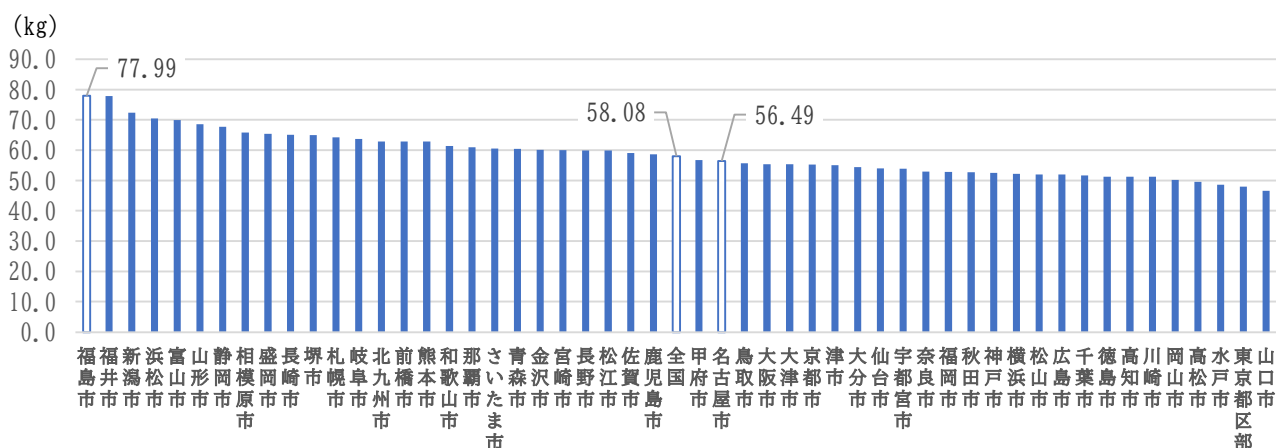


資料：農林水産省「食料需給表」

## 2 年間の米の購入数量等について

1世帯当たりの年間の米の購入数量について、「家計調査」（総務省）から都道府県庁所在市及び政令指定都市ごとに2022年～2024年の3か年平均をみると、第1位は福島市で77.99kgとなりました。名古屋市は第28位で56.49kgとなっており、全国平均の58.08kgとほぼ同等の結果となりました。（図表2）

図表2 1世帯当たりの年間の米の購入数量（2022年～2024年平均）

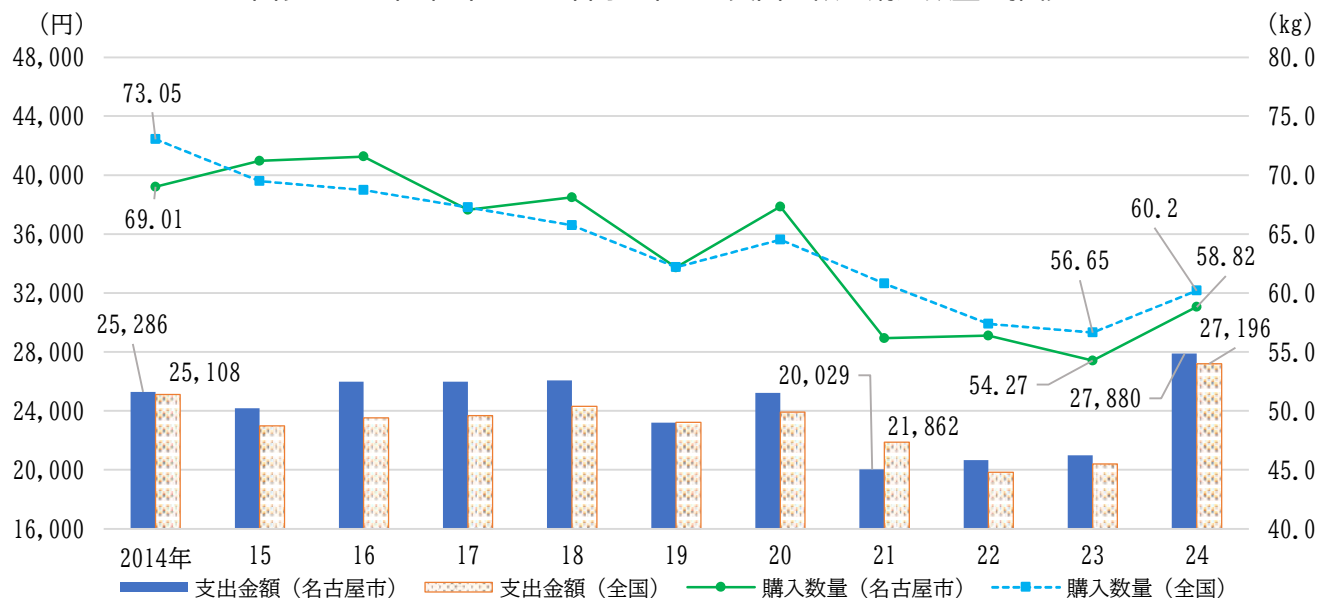


資料：総務省統計局「家計調査」二人以上の世帯

続いて、名古屋市の1世帯当たりの年間の米への支出金額と購入数量について、過去10年間の推移をみると、支出金額は2014年の25,286円から2021年に20,029円まで減少しましたが、2024年は27,880円と増加しました。購入数量は2014年の69.01kgから2023年に54.27kgまで減少しましたが、2024年は58.82kgと増加しました。

全国についても、名古屋市とほぼ同様の傾向で推移しました。（図表3）

図表3 1世帯当たりの年間の米への支出金額と購入数量の推移



資料：総務省統計局「家計調査」二人以上の世帯

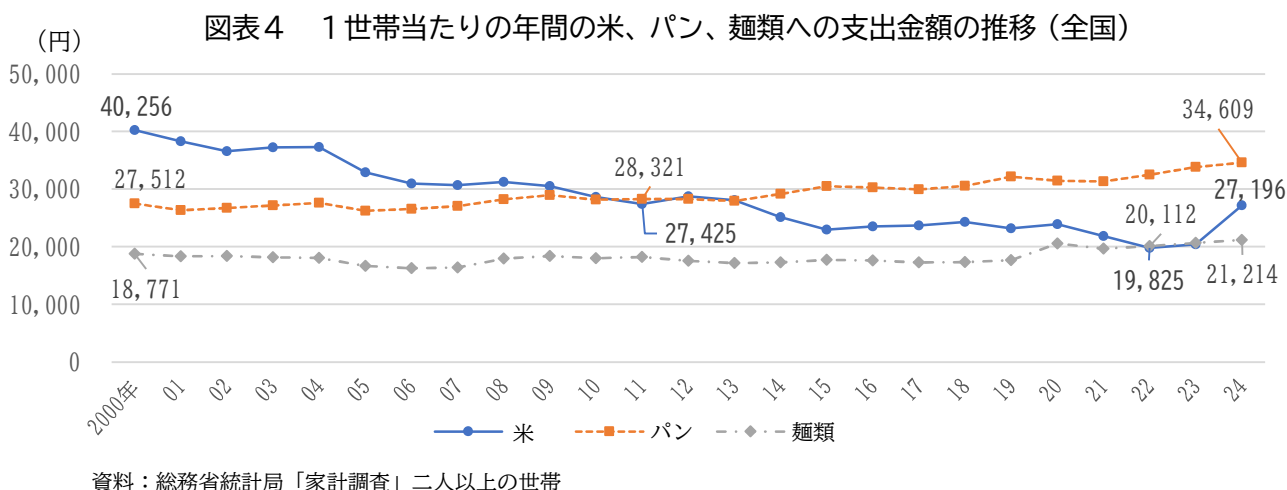
### 3 米、パン、麺類への支出金額の推移について

次に、「家計調査」（総務省）から、全国と名古屋市の1世帯当たりの年間の米、パン、麺類への支出金額について、2000年からの推移をみていきます。

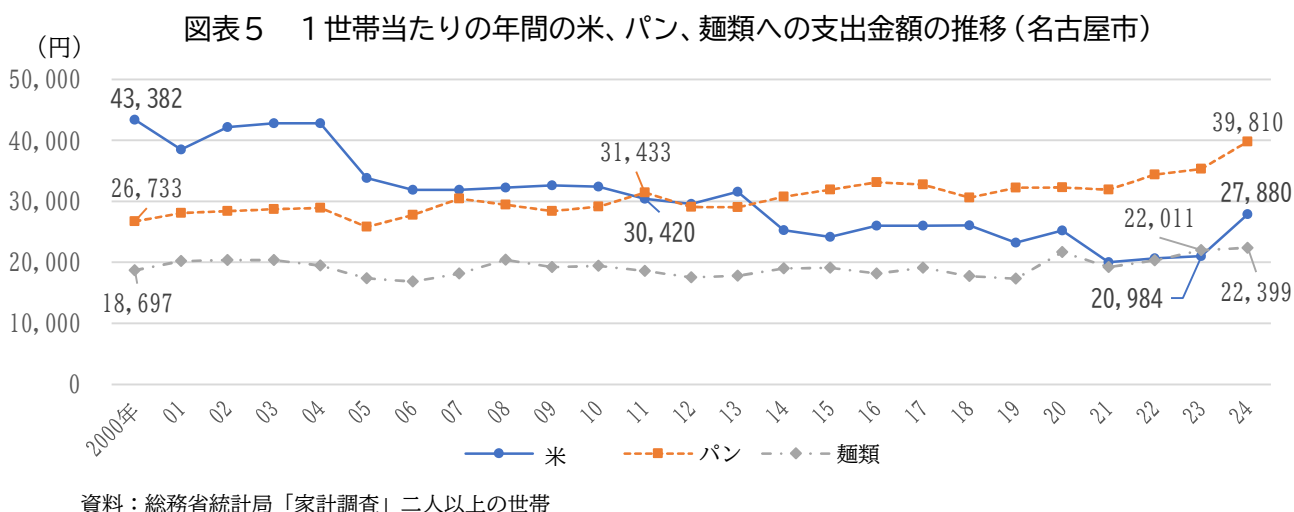
まず、全国の推移についてみると、米への支出金額は、2000年の40,256円から減少を続け、2022年に19,825円まで減少しましたが、2024年は27,196円に増加しました。

パンへの支出金額は、2000年の27,512円から徐々に増加し、2011年に米への支出金額を抜き、28,321円となりました。2024年は34,609円まで増加し、米、パン、麺類の中で最も高くなりました。

麺類への支出金額は、2000年の18,771円から横ばいに推移しています。2022年に20,112円となり、米への支出金額（19,825円）を抜きましたが、2024年には再び米への支出金額が麺類を上回りました。（図表4）



名古屋市についても全国と同様の推移がみられ、米への支出金額は減少しています。2011年にパンへの支出金額（31,433円）に抜かれ、2023年には麺類への支出金額（22,011円）に抜かれました。2024年のパンへの支出金額は39,810円となり、米、パン、麺類の中で最も高くなりました。（図表5）



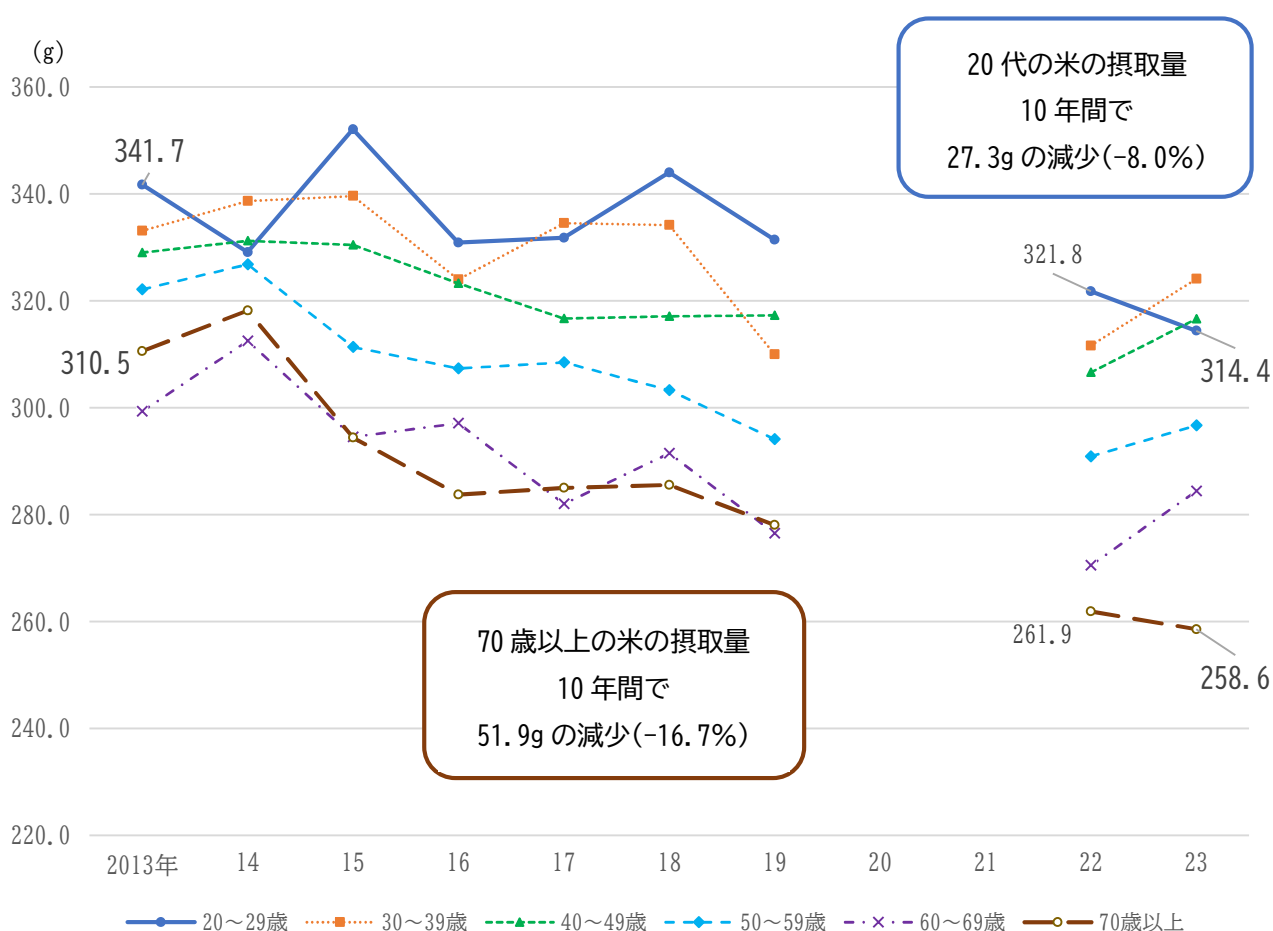
#### 4 年齢階級別の米の摂取量の推移について

「国民健康・栄養調査」（厚生労働省）から、年齢階級別に1人1日当たりの米の摂取量について、2013年から2023年の推移をみると、全年齢で減少傾向にあることがわかります。

その中で、特に減少幅の大きかった20代と70歳以上の米の摂取量の推移に注目すると、20代は2013年の341.7gから2023年の314.4gまで27.3g減少、70歳以上は2013年の310.5gから2023年の258.6gまで51.9g減少しました。

70歳以上の米の摂取量の減少幅は、20代の米の摂取量の減少幅よりも大きいことがわかります。（図表6）

図表6 1人・1日当たりの米の摂取量の推移（年齢階級別）



（注）2020年、2021年は新型コロナウイルス感染症の影響により統計がありません。

資料：厚生労働省「国民健康・栄養調査」

## 5 主食への年間支出金額とその構成割合

「家計調査」（総務省）から世帯主が29歳以下の世帯と70歳以上の世帯について、主食への年間の支出金額とその構成割合を2013年と2023年で比較すると、29歳以下、70歳以上の世帯どちらも「米」の占める割合が減少していることがわかります。

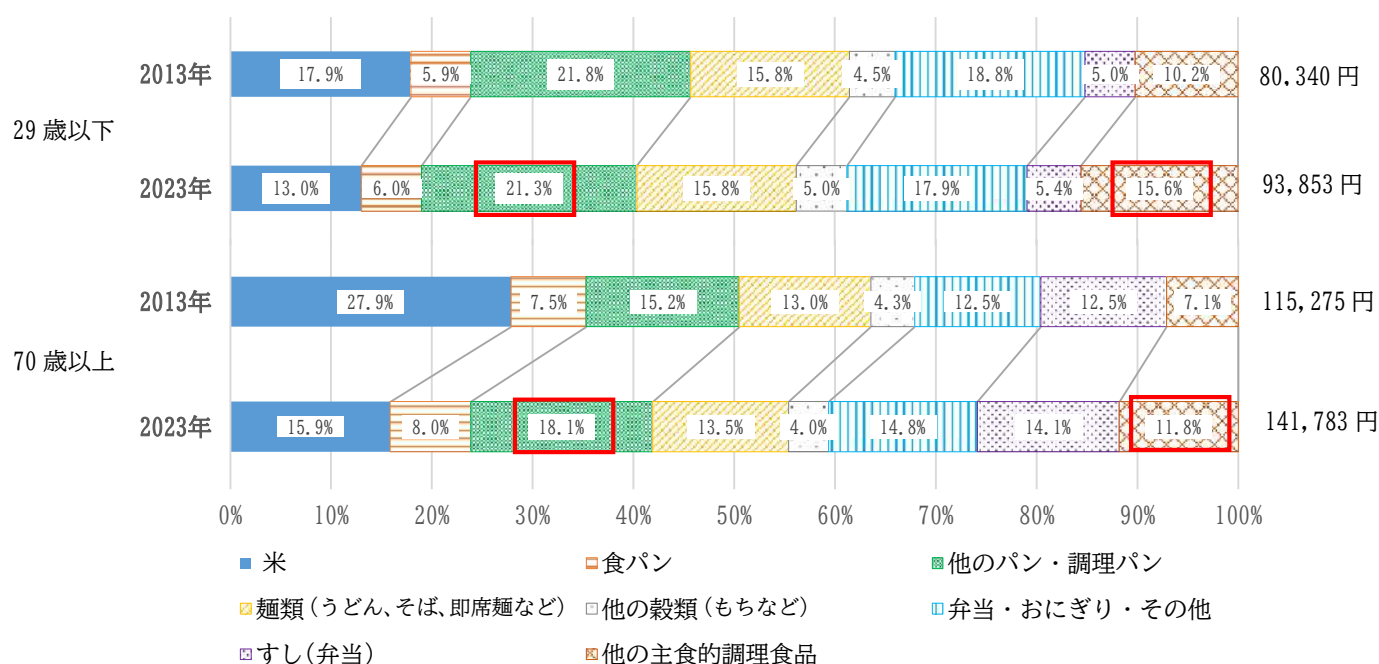
29歳以下の世帯では、2013年は「他のパン・調理パン」の占める割合が21.8%と最も大きく、2023年も同様の傾向となりました。

70歳以上の世帯では、2013年は「米」の占める割合が27.9%と最も大きかったのに対し、2023年は「他のパン・調理パン」の占める割合が最も大きくなりました。

また、どちらの世帯も冷凍ピザ、冷凍パスタなどの「他の主食的調理食品」の占める割合が増加しており、2013年と比べると、2023年は29歳以下の世帯で5.4%増加、70歳以上の世帯で4.7%増加しました。

「米」の占める割合が減少する一方で、「他のパン、調理パン」や「他の主食的調理食品」などの占める割合が増加している傾向がみられます。（図表7）

図表7 1世帯当たりの主食への年間支出金額とその構成割合



（注）家計調査における項目名の内容例示

他のパン：パンのうち、基本的な原材料以外の食材を加え、初めから一つに形成されたもの。（例：あんパンなど）

調理パン：パンを材料として、それに加工食品、野菜などを挟んで調製されたもの。（例：サンドウィッチなど）

すし（弁当）：飲食店以外の持ち帰りのもの。冷凍は除く。（例：にぎりずし、まきずし、いなりずしなど）

他の主食的調理食品：弁当・おにぎり・その他、すし（弁当）、調理パンに分類されない主食的調理食品。冷凍も含む。

（例：冷凍ピザ、冷凍パスタなど）

資料：総務省統計局「家計調査」二人以上の世帯

### おわりに

日本人の米の消費量は減少傾向にあります。米への支出金額は減少傾向にある一方で、パンや麺類への支出金額は増加傾向にあるようです。

また、20代と70歳以上の年齢層では、米の摂取量が大幅に減少していることがわかりました。食の多様化や簡便化等により、調理パンや冷凍ピザ、冷凍パスタなどの消費が増加していることもうかがえます。